



# 湿原水溶存有機物の糖組成と元 素組成における 気候帯と季節変化の影響

○筒木 潔<sup>1</sup>, 吉田恵美<sup>1</sup>, 渡辺 彰<sup>2</sup>, 真家永光<sup>3</sup>,  
Lulie Melling<sup>4</sup>, Rudolf Jaffe<sup>5</sup>

<sup>1</sup>帯広畜産大学, <sup>2</sup>名古屋大学大学院生命農  
学, <sup>3</sup>北里大学獣医学部, <sup>4</sup> Tropical Peat  
Research Unit, Sarawak Chief Minister's  
Department, <sup>5</sup>Florida International University

# 研究目的

各気候帯(熱帯、冷温帯)に属する湿原から  
供給される溶存有機物の組成・構造等を  
明らかにする

マレーシア・サラワク州(熱帯)

フロリダ・エバーグレイズ湿原(亜熱帯)

北海道東部(冷温帯)

の湿原水溶存有機物の  
地域差・季節変化について考察

# 研究方法

- 元素分析
- FT-IR
- 紫外・可視吸収スペクトル
- 糖組成分析
- アミノ酸分析(予定)
- ゲル浸透クロマトグラフィー
- 分子サイズ画分の特性付け
- 3次元蛍光スペクトル

# 試料

- マレーシア・サラワク州ムカ（熱帯）
  - Bakong（開発が始まった湿地林）
  - Lebang（自然状態に近い湿地林）
- フロリダ・エバーグレイズ湿原（亜熱帯）
  - Shark River Slough（マングローブ 泥炭土）
  - Taylor Slough（Saw Grass 泥灰土）
- 日本（冷温帯）
  - 霧多布湿原 泥川
  - 別寒辺牛湿原 チライカリベツ川
  - 十勝川河口域湖沼群 紀文沼橋
  - 十勝川河口域湖沼群 沼川橋